

## 4時限目：データの入力



先生、おはようございます。きょうはデータの入力ですか？

みなさん、おはようございます。はい、データの入力です。

みなさんは、すでにページへの表示はできるようになりましたが、例えば文字を変えたいとき、毎回プログラムを書き直すのは不便ですね。



はい！

ですので、データを入力する部品を取り付ければ、そのプログラムはとても応用が効くものになります。

前回のファイルを準備しましょう。

```
<p><button onclick="btn1();">押す</button></p>
<p id="output1">おはようございます。</p>

<script>
  const output1 = document.getElementById("output1");

  function btn1(){
    output1.innerHTML = "こんにちは。";
  }
</script>
```

### 1. input要素

では次のコードをボタンの上に追加してください。input要素は入力のパーツです。type属性は種類、ここではtextの種類の入力のパーツということになります。

```
<p><input type="text" id="input1"></p>
```



四角い枠が表示されました。文字も書き込みました。

続いて…



この入力のパーツも扱うために要素の取得ですね。const output1の上の行でいいですか。

```
const input1 = document.getElementById("input1");
```

そのとおりです。次に関数の中のこれを修正しましょう。

```
output1.innerHTML = "こんにちは。";
```

入力のパーツ(input1)の値をoutput1の内側のテキストに代入します。

入力のパーツの値は「input1.value」と書きます。そのまんまですね。ですから、

```
output1.innerHTML = input1.value;
```

となります。全体はこのようなになります。

```
<p><input type="text" id="input1"></p>
<p><button onclick="btn1();">押す</button></p>
<p id="output1">おはようございます。</p>

<script>
  const input1 = document.getElementById("input1");
  const output1 = document.getElementById("output1");
  function btn1(){
    output1.innerHTML = input1.value;
  }
</script>
```



とてもわかりやすいコードですね。


そうですね。今まで学んだ内容でここまでできました。

---

## 2. コンテンツを書き変える

では、input要素にタグを含んだ文字を入れてみてください。例えば


```
<h1>大見出し</h1>
```

 大きくなりました！h1要素が有効になっているんですね。


では次にこれはどうでしょう。

```

```

 画像が表示されました。

ここで考えてみましょう、「.innerHTML」は最初テキストを書き変えると言いましたが、タグも有効だとわかりましたので、実は、「.innerHTML」はHTMLを書き換えることができるのです。つまり、ページ全体をボタンひとつで書き変えることもできるのです。

 ひゃ～すごい！

---

### 3. placeholder

例えば、郵便番号を入力するとき、ハイフンは入れますか？入れませんか？

 う～ん、どっちかなあ迷います。説明が書いてあればそのとおりにします。

そんなときはplaceholderを使ってみましょう。placeholder属性は正式な値が入るまで表示しているものです。

```
<p><input type="text" id="input1" placeholder="000-0000"></p>
```

 薄くサンプルが見えました。じゃ、ハイフンを入れます！

---

### 4. input要素のtype属性

input要素を次のコードに順次書き換えてみてください。

スライダ

```
<p><input type="range" id="input1"></p>
```

## カレンダー

```
<p><input type="date" id="input1"></p>
```

## カラーピッカー

```
<p><input type="color" id="input1"></p>
```



入力しました！値が変わります！

このように、私達は様々な方法でプログラムにデータを入力することができるようになりました。



プログラムと会話しているみたいです。

「会話」まさにそのとおりですね！